

選定委員 桂由美さん、假屋崎省吾さんと
親善大使 板野友美さん



恋人の聖地プロジェクト活用による 地域活性化と少子化対策の融合

私どもNPO法人地域活性化支援センターは、2006年に桂由美さん、假屋崎省吾さんらとともに「少子化対策と地域の活性化への貢献」をテーマとした『観光地域の広域連携』を目的に設立され、社会貢献プロジェクト「恋人の聖地プロジェクト」を展開しています。このプロジェクト

では、全国の観光地域の中からプロポーズにふさわしいロマンチックなスポットを「恋人の聖地」として選定登録し、地域の新たな魅力づくりと情報発信を図るとともに、地域間の連携による地域活性化を図っています。また、各地域による様々な活動を通して

て若い人々のみならず地域社会に向けて「結婚」に対する明るい希望と空気の醸成を図るための活動をしています。

全国には過去に整備された素晴らしい観光スポットが沢山あり、それを若い人たちの旅の思い出となる、わかりやすい「恋人の聖地」のネーミングと新しい切り口で情報発信することにより、施設整備に頼らない観光地のリノベーションができるのではないかと、さらにはネーミングが全国各地で共有し、周遊観光のストーリーができれば、観光事業を通じた地域活性化にも貢献できるのではないかと、というところから異色の少子化対策プロジェクトがスタートしました。

現在の選定登録地は、全国46都道府県に渡り、自治体・観光協会等が運営する「恋人の聖地」133ヶ所、企業・団体による「恋人の聖地サテライト」は78ヶ所に広がっています。愛媛県内では恋人の聖地と



ふたみシーサイド公園／恋人岬
(伊予市)



NPO法人地域活性化支援センター
理事長 志垣 恭平

して松山城二之丸史跡庭園(松山市)、ふたみシーサイド公園／恋人岬(伊予市)、松山自動車道／伊予灘サービスエリア(伊予市)、具定展望台(四国中央市)の4ヶ所。サテライトとして北条鹿島(松山市)、セントクリアリーフ迎賓館(西予市)の2ヶ所が選定登録されています。また、各選定登録地は、地域の企業・団体・学校等と幅広い連携をはかり、それぞれの資源を活用した婚活イベント企画、周遊・宿泊プラン、お土産商品企画・飲食メニュー開発・ブランドプラン等々、若い人たちに向けた情報発信と誘客促進に取り組み、地域活性化策として成果を上げてきています。民間による少子化対策と観光事業との連携による地域活性化の取り組みは、『地方創生』に向けた異色のプロジェクトとして、幅広いメディアに取りあげられる機会が増え、地元の人々の意識を高め、若い人たちが活躍できる場作りにもつながってきています。

プロジェクト事務局による支援事業

また、プロジェクト事務局では、事業化の難しい少子化対策事業展開の支援と啓発を目的とした全国コンテストを開催しています。

一つは毎年1回開催の「プロポーズの言葉コンテスト(2007年〜)」。『ひとりからふたりへ、そして家族へ』をキーワードとして、これから結婚する若い人々に結婚することの素晴らしさや、家族で支え合うことの大切さを感じていただくことを目的に、全国からプロポーズの言葉を公募しています。毎年応募数は2千を越え、東京での授賞記者発表会では、多くのマスメディアに取り上げていただき大きな啓発効果を上げてきています。

もう一つは「恋人の聖地／全国ラブフォ



具定展望台(四国中央市)は夜景もロマンティック



神戸淡路鳴門自動車道／淡路サービスエリア(兵庫県)



愛国駅・幸福駅(北海道)ハッピーセレモニーも人気

トコンテスト」。恋人の聖地を訪れたカップルの思い出をSNS等を通して広く公開することにより、日本全国のカップルを応援するとともに、「恋人の聖地」の活動の周知を図っています。スマートフォン等とWEBを活用したフォトコンテストは、若年層の取り込みに大きな成果を上げています。

「恋人の聖地観光協会」の設立

恋人の聖地選定登録地の中には、まだ十分事業に活用できていない所もある中で、選定登録地の成功事例の共有と交流・情報交換の場作りを目的として「恋人の聖地観光協会(協議会)」の設立を予定しています。この観光協会は全国の選定登録地211カ所をベースに、一般企業にも参画

を呼び掛けてゆくこととなります。観光協会設立のもう一つの大きな目的は、企業との連携によるサポート組織作りにあります。一般企業にも幅広く観光協会への参画を呼び掛け「恋人の聖地」を活用した事業推進アイデアを参画企業とともに生み出し、全国の選定登録地で活用いただくことのできるプランとしてブラッシュアップを図ってゆくこととなります。例えばJT Bとの連携では各地の着地型観光の種となる情報を収集し、具体的な旅行プランとして造成、送客の仕組みづくりを図り、また、結婚関連企業等との連携では、各地の自然環境を活用した「恋人の聖地リゾートウェディング」など、少子化対策のテーマ「結婚」の観光資源化も検討してゆきます。恋人の聖地観光協会は「恋人の聖地」活用のためのプラットフォームとして機能してゆくこととなります。

観光を軸とした地方創生への取り組み

私どもは地域活性化、地方創生の要は観光だと考えており、交流人口の拡大が地域の元気の源となると考えています。恋人の聖地プロジェクトは一つの観光資源に別の側面から光を当てることにより、新たな価値と需要を生み出すことができ、交流人口の拡大に貢献できるものと考えています。

参考／<http://www.seichi.net/>(恋人の聖地公式サイト)